

大学では1回90分の授業につき、4.5時間の予習・復習が必要です
—小学生・中学生・高校生のうちから、予習・復習の学習習慣を—

開倫塾

塾長 林明夫

Q1：大学生は1回90分の授業につき、4.5時間の予習・復習が必要なのですか。

A：(1)はい、その通りです。大学は最高学府なので、1回90分の授業について、合計4.5時間の予習・復習が必要です。

(2)1週間に10教科を大学で学ぶ場合には、月～金で1日平均2教科です。1週間に合計45時間の予習・復習が必要です。

(3)7日間毎日、予習と復習をすれば、1日6.5時間ですが、土・日はお休みすると5日間になりますので、1日9時間の予習・復習となります。

(4)1日24時間のうち、睡眠時間(8時間位)と通学や授業時間(6時間位)を除いた残りの時間は10時間です。そのうちの6.5～9時間が「予習・復習」の時間となります。



Q2：大学生はそんなにたくさん予習・復習をしているのですか。

A：(1)睡眠時間を削ったり、大学にいる間の時間や通学時間などを工夫したりして、大学生の皆さんは予習・復習の時間を確保しているようです。

(2)一番賢い大学生は、その学期の授業が始まる前の2か月間の長期休暇の間に、次の学期に学ぶ教科のうち何教科の教科書を、1冊予習しています。

(3)新学期が始まってから数多くの新しい教科を全部一斉に学ぶのは本当に大変なので、たとえ何教科だけでも、学期が始まる前に予習しておこうというものです。素晴らしいと考えます。



Q3：何だか、開倫塾がすすめている「GWが終わるまでに、新学年の教科書をたとえ半分、3分の1だけでも予習し終えよう」と似ていますね。

A：(1)新学期が始まる前に、教科書の最初の100ページを、できれば全教科、できなければ1教科でも多く予習しておくことをおすすめします。

(2)開倫塾で学ぶ小学生・中学生・高校生の皆様の多くは、高校卒業後に大学、短期大学、専門学校、専修学校、大学院などに進学すると思います。

(3)そこでおすすめしたいのは、大学などに進学したあとで困らないように、小学生・中学生・高校生のうちから、たとえ短い時間であっても、「予習」「復習」の「学習習慣」を



身に着けてから「大学などに進学」することです。

- (4)「予習・復習」の「学習習慣」が身に着いていなければ、大学生になったからといって、急に「長時間の予習や復習」をするのは無理です。
- (5)同時に、「予習」「復習」の「大切さ(価値)」を知り、「意味」を考え、「具体的なやり方」を身に着けておくことが大切です。

Q 4 : 「予習・復習」の「大切さ(価値)」とは何ですか。

A : (1)「予習」とは、「授業」の内容を「予(あらかじめ)め習(なら)う」こと。テキストや資料に書いてあることを、「一語一句」ゆるがせにしないで「理解」し、自分のものとして身に着けることです。問題は、すべての自分の力でノートに解くことです。わからない語句があったら辞書で調べ、その意味を覚えておくこと。そして、「何がわからないかをはっきりさせて授業に臨むこと」、これが「予習の目的」です。



- (2)「復習」とは、その日の授業内容を、テキストや資料、ノートなどを用いて思い出し、どのようなことかよく考え「理解を深める」こと。計算や問題は、もう一度解き直してみることです。
- (3)そして、時間を作って「予習」や「復習」をして十分に「理解」した内容を、「正確に身に着ける」ことが大事です。
- (4)声を出して読む「音読練習」、正確に書けるようにする「書き取り練習」をすること。テキストやノートの内容をスミからスミまで何も見ないで言える「暗唱(あんしょう)」や、何も見ないで書ける「暗記」にも挑戦すること。
- (5)計算や問題は、パッパッパッと正解が出るまで何回も解く練習をすることをおすすめします。

Q 5 : 最後に一言どうぞ。

A : 小学生・中学生・高校生のうちから「効果の上がる学習方法」を身に着けておくと、大学生になっても困りません。どうか頑張ってくださいね。

